

2018年度 農場実習アンケート結果

農場実習後、参加者に実習によって「学んだこと」「考えの変化」「満足度」に関する28の設問について5段階評価でアンケート調査を行った。

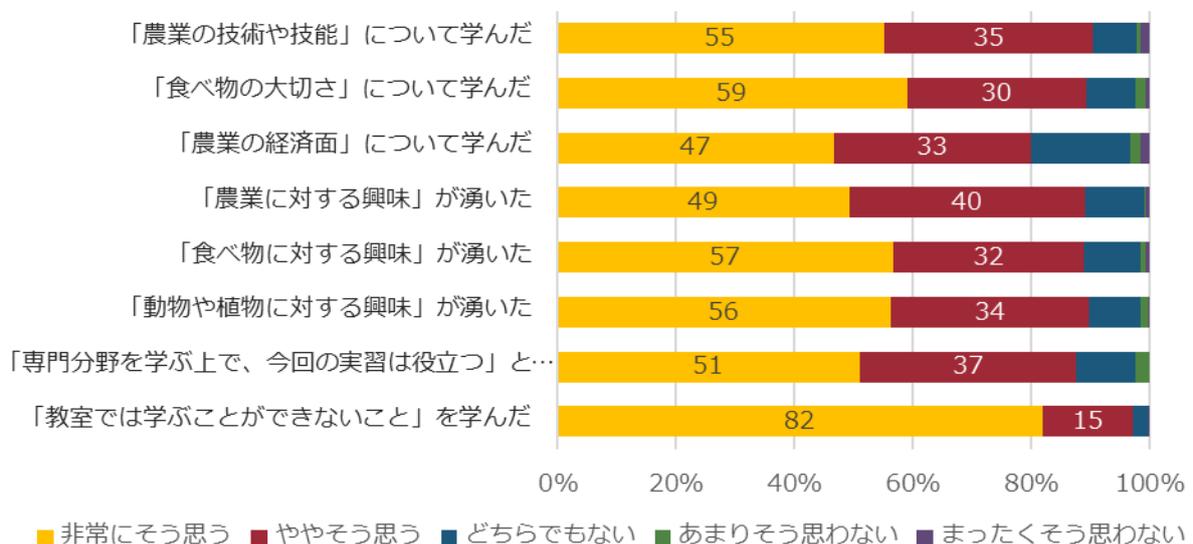
調査対象者

男女比はほぼ同程度であった。学年を見ると、2年生が最も多く、次いで3年が多く、この2学年で約7割を占めていた。5年と6年はすべて大阪府立大学の学生であった。

		数	割合
性別	男性	161	49.4%
	女性	157	48.2%
	未解答	8	
学年	1年	47	14.4%
	2年	146	44.8%
	3年	76	23.3%
	4年	16	4.9%
	5年	25	7.7%
	6年	8	2.5%
	院生	4	1.2%
	未解答		

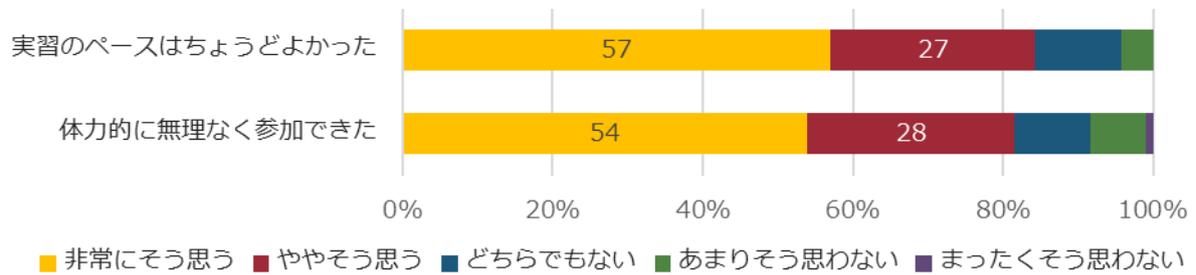
実習参加による学習効果

実習参加による農業や食に対する学びや考えの変化について、全ての設問で80%以上の学生が「非常にそう思う」「ややそう思う」と回答しており、農業や食を学ぶ上で効果的な実習であったと考えられる。さらに「自身の専門分野を学ぶ上で今回の実習が役立つと思う」の設問には、「非常にそう思う」「そう思う」が88%を占め、専門性を深める上でも有意義であったと考えられる。また、「教室で学ぶことができないことを学べた」については、97%の学生が「非常にそう思う」「そう思う」と回答しており、農場実習でしか得ることができない経験や学びが来ていると言える。

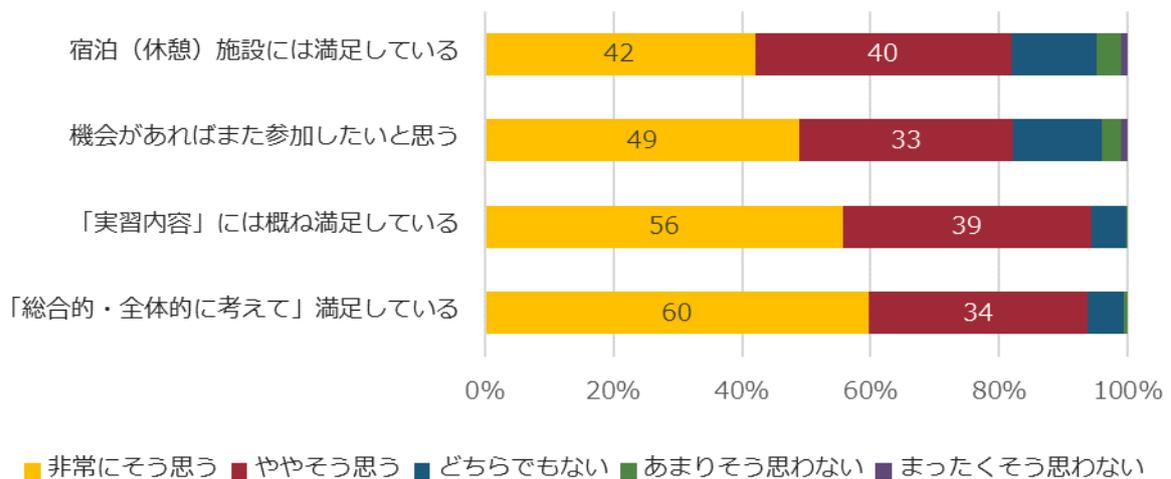


実習の評価

「実習のペース」や「参加者の体力面」について尋ねたところ、全体の80%以上が無理なく参加できたと回答していた。参加時期によってはやや体力的に厳しかったとの回答も得られた。



実習の満足度に関する4つの設問において、「宿泊（休憩）施設に満足している」「機会があればまた参加したい」では約83%の学生が「非常にそう思う」「ややそう思う」と回答していた。また「実習内容」と「総合満足度」では約94%の学生が「非常にそう思う」「ややそう思う」と回答しており、実習に対する評価が高いと考えられる。



5年間の総合的な満足度について「非常にそう思う」「ややそう思う」と回答した学生の割合を見ると、91～98%の間で推移しており、学生が満足できる有意義な実習を提供し続けられていると考えられる。

